発行 ： 2008年7月

平成19年度 変額個人保険（特別勘定）の現況

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

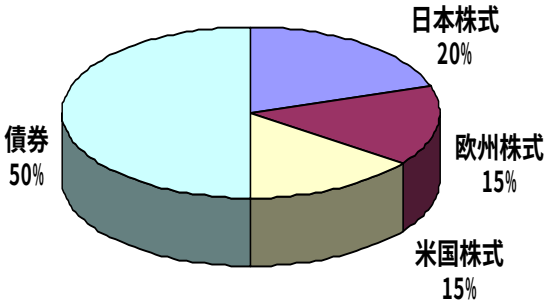
ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス　http://www.axa.co.jp/life/

特別勘定の当期および来期の運用方針

■ 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。
為替リスクは、原則として、フルヘッジします。
■ 基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。
■ 特別勘定の運用は、各投資信託（ファンド）の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社 投資性プロフィットセンター ファンドマネジメント・チームが行います。
■ 特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社（運用協力会社）の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。
■ 各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。



（注）上記は設定当初の資産配分比率です。
（注）資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

特別勘定のINDEXの推移

日付	INDEX
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007
07/10/31	1.009
07/11/30	0.982
07/12/31	0.978
08/01/31	0.935
08/02/29	0.941
08/03/31	0.914

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、
その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

運用環境について (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

【日本株式市場】
■ 日本株式市場は、TOPIXで▲29.22%と大幅に下落しました。期初のファンダメンタルズでは、6月に発表されたGDP第1四半期成長率改定値が年率3.3%となり、失業率も低下するなど景気の好調さを裏付ける結果となりました。しかし、7月末の参議院選挙で与党自民党が歴史的敗北を喫し、今後の政局運営、金融政策の不透明感が増しました。また、米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題の影響から、8月17日には前日比で5%以上の下げを記録し、ITバブル以降最大の下げ率となりました。9月には、安倍晋三首相が突然の辞任を発表し、その後福田康夫氏が選出されましたが、株式、為替市場の反応は限定的でした。11月には、サブプライムローン問題への懸念が再燃し、金融銘柄を中心に日本株式市場は大幅に下落したものの、中国政府系ファンドが日本株式に投資する見通しであることや、米連邦準備制度理事会（FRB）がさらなる利下げに踏み切る可能性があるとの憶測を呼び日本株式市場は急騰しました。
■ 年明け以降は、前年に引き続きサブプライムローン問題に絡んだ金融不安、米景気失速懸念から世界同時株安でスタートしました。1月中旬にサブプライムローン関連の証券化商品の信用を支えたモノライン（金融保証会社）の格下げが発表され、金融機関の損失拡大懸念が広がると、世界的な景気先行き不安感が台頭し、日本株式市場ではさらに円高も加わって、輸出関連株を中心に急落し、そのまま軟調基調で期を終えました。

【米国株式市場】
■ 米国株式市場は、S&P500種株式指数で▲6.91%下落しました（現地通貨ベース）。期初からの4ヶ月は企業の決算内容や雇用統計の内容が良好であったことなどから、堅調に推移しました。その後は、影響が限定的と見られていたサブプライムローン問題が拡大し、世界的に信用市場で混乱が生じ、米国株式市場は大きく乱高下しました。
■ 年が明けて、再びサブプライムローン問題が金融市場を揺るがし、サブプライムローン関連の証券化商品の信用を支えたモノライン（金融保証会社）の格下げが世界経済、とりわけ米国経済の見通しに対する不安を呼び、米国株式市場は更に下落しました。期末は、モノライン救済策の発表がなかったことや、バーナンキFRB議長が一部金融機関が破綻する可能性を示唆したことを嫌気して、下落して期を終えました。
■ 当期はFRBによる度重なる政策金利の引き下げがあったにも関らず、米国株式市場は下落を続けました。

【欧州株式市場】
■ 欧州株式市場は、MSCI欧州株式指数で▲14.03%下落しました（現地通貨ベース）。8月中旬にかけてはFRBによる利下げ、欧州中央銀行（ECB）との連携により資金供給を受けて、信用収縮に歯止めがかかるとの期待感から欧州株式市場は一時反発したものの、11月の四半期決算発表において、欧州大手金融機関が大幅減益を発表、サブプライム問題が経済に与える深刻な影響が認識されるにつれ、頭の重い展開となりました。
■ 年明けに米国モノラインの格下げにより金融機関の追加損失拡大懸念が広がると、米国同時多発テロ以来の下落幅を記録しました。更に仏ソシエテ･ジェネラルの不正取引による巨額損失が追い討ちをかけました。英国中央銀行（BOE）が利下げを行ない、ECBも今後の利下げに含みを持たせたものの、下落基調を反転させるには至りませんでした。期末にかけては、好調な欧州主要経済指標などを好感し一時は反発する場面もありましたが、本格化する米国の景気後退などを背景に軟調基調で推移しました。期末は、モノライン救済策の発表がなかったことや、バーナンキFRB議長が一部金融機関が破綻する可能性を示唆したことを嫌気して、下落して期を終えました。

【国内債券市場】
■ 国内債券市場は、夏前までは、金利正常化を意識した日銀の金融政策を巡る憶測が、市場動向に大きく影響しましたが、その後は、サブプライムローン問題に伴う信用収縮懸念や世界的な景気減速懸念が主な材料となりました。
■ 期初から6月末までは、世界的なインフレ懸念の高まり、主要国の長期金利の上昇、中長期的な観点から金利正常化を意識した日銀の金融政策に対する姿勢等から、10年国債利回りは期初の1.6%台半ばから1.9%台まで上昇しました。また、日本株式市場が堅調に推移したことも材料視されました。
■ 7月以降は、サブプライムローン担保証券を組み入れたファンドの損失のニュースを発端に、信用収縮懸念が拡大し、世界的に質への逃避が進みました。FRBが利下げに転じたことも、市場の動きを後押ししました。国内債券市場においても、これに連動する形で、株安／債券高が進みました。サブプライム問題の国内企業および経済に対する影響は限定的との見方が主流だったものの、企業景況感が徐々に弱含み、個人消費にも力強さが見られなかったことが、年後半に向けての国内景気減速懸念へとつながりました。また、日銀の金融政策に対しても利上げは難しいとの見方が強まり、金利先高感は払拭されていきました。10年国債利回りは、6月後半の1.9%台から下落基調をたどり、12月には1.5%台前半、2008年3月末には1.2%台まで低下して、期を終えました。

《参考指標》

		2007年3月末	2008年3月末	変化率
日本	TOPIX（東証株価指数）	1,713.61 ﾎﾟｲﾝﾄ	1,212.96 ﾎﾟｲﾝﾄ	-29.22%
	日経平均	17,287.65 円	12,525.54 円	-27.55%
	新発10年国債	1.650 %	1.275 %	0.375低下
米国	NYダウ	12,354.35 ﾄﾞﾙ	12,262.89 ﾄﾞﾙ	-0.74%
	S&P500	1,420.86 ﾎﾟｲﾝﾄ	1,322.70 ﾎﾟｲﾝﾄ	-6.91%
	NASDAQ	2,421.64 ﾎﾟｲﾝﾄ	2,279.10 ﾎﾟｲﾝﾄ	-5.89%
	10年国債	4.644 %	3.410 %	1.234低下
欧州	FT100	6,308.00 ﾎﾟｲﾝﾄ	5,702.10 ﾎﾟｲﾝﾄ	-9.61%
	CAC40	5,634.16 ﾎﾟｲﾝﾄ	4,707.07 ﾎﾟｲﾝﾄ	-16.45%
	DAX	6,917.03 ﾎﾟｲﾝﾄ	6,534.97 ﾎﾟｲﾝﾄ	-5.52%
	独10年国債	4.057 %	3.899 %	0.158低下
為替	米ドル/円レート	118.05 円	100.19 円	15.13%円高
	ユーロ/円レート	157.33 円	158.19 円	0.55%円安

(注) 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利（日本）、ジェネリック米国利回り10年（米国）、ドイツ国債10年の利回り（欧州）を表示しております。
(注) 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

特別勘定資産残高 (平成20年3月31日現在)

項　　目	金　　額 (千円)	構　成　比 (%)
預貯金･コールローン	554,566	1.6
日本株式型投資信託①(アクサR)	3,402,641	9.6
日本株式型投資信託②(アクサR)	5,127,704	14.5
米国株式型投資信託②(アクサR)	5,270,491	14.9
欧州株式型投資信託②(アクサR)	3,466,864	9.8
日本債券型投資信託(アクサR)	17,102,758	48.2
その他	544,351	1.5
特 別 勘 定 合 計	35,469,378	100.0

保有契約高 (平成20年3月31日現在)

項　　目	件　　数 (件)	金　　額 (千円)
変 額 保 険 (有 期 型)	1,111	2,561,940
変 額 保 険 (終 身 型)	56,207	301,553,951
合　　計	57,318	304,115,892

特別勘定の運用収支状況

項　　目	金　　額 (千円)
利息配当金収入	486,965
有価証券売却益	-
有価証券評価益	484,594
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	4,490,776
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	-
収 支 差 計	▲ 3,519,215

(注) 各項目の金額の単位未満は切捨てといたしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っておりません。

(注) 当変額保険の運用は、原則として国内投資信託を組入れることにより行っております。従って、国内株式、国内公社債、外国株式、外国公社債は組み込んでおりませんので、それらの項目に関する情報を開示することができません。あらかじめご了承ください。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

特別勘定の当期運用分析

■ 当期の運用分析

当期の株式・債券への資産配分は、基本的な配分比率から大きく乖離することなく推移し、株式50%程度、債券50%程度を維持しながら運用を行いました。
米国株式及び欧州株式の為替リスクについては、株式の時価合計程度の売り為替予約を維持しました。
株式・債券への投資は、アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社が運用する投資信託の買付けを通じて行われました。
尚、当期においては各ファンドの資産配分比率の変更は実施されておりません。

■ 資産配分比率

	平成19年6月30日	平成19年9月30日	平成19年12月31日	平成20年3月31日
株式	50.0%	51.2%	49.7%	49.4%
債券等	50.0%	48.8%	50.3%	50.6%

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター